

ひとりひとりにやさしさ実館 ♥ ハートフルおりづる

おりづる



第23回おりづるオセロ大会の様子

理念及び基本方針

【理念】 スポーツ、レクリエーション、文化活動を通じて、障がいのある人の生きがいづくりを応援します。

【基本方針】

- スポーツ、レクリエーション、文化活動を通じて、障がいのある人の社会参加の促進に努めます。
- 利用者の人格・人権を尊重し、利用者の立場に立ったサービスを提供します。
- 設備の安全点検と丁寧な利用説明を行い、利用者の「安心・安全」に努めます。
- 知識と技術の向上を常に心がけ、サービスの質の向上に努めます。
- 利用促進と業務の効率化に努め、健全な施設運営を目指します。スポーツ交流センター・おりづる

トピックス

- 大会報告
- 令和7年度おりづるサポーター募集
- 全国障害者スポーツ大会帯同報告
- 特集：福祉用具について
- おりづる主催教室講師に聞いてみました Vol.2

大会報告

第29回広島県障害者卓球大会（知的障害者・精神障害者の部）開催

令和6年
10月20日(日)

今年度より、開催時期を10月に変更して開催しました。当日は、県内各地から40名を越える選手の参加がありました。10月にしてはとても暖かい気候の中、大会は真夏のように暑い…熱い戦いが繰り広げられました。

この大会は身体障害者の部同様、開館当時より開催している大会です。ここ近年では特別支援学校など若い世代の選手の参加も多く、『卓球』という競技は本当に多くの世代から愛されている競技だと実感しました。

全国障害者スポーツ大会において、今まで精神障害者が出場できるのは、団体競技のバレーボールだけでしたが、2019年の茨城大会より、精神障害者の区分が新たに追加されました。（実際には台風で中止となりました。）

その後、鹿児島大会、三重大会と新型コロナウイルスの影響で相次いで大会が中止となり、2022年の栃木大会より実施されました。

本大会は、その全国障害者スポーツ大会の広島県代表選手の選考も兼ねた大会となっています。（広島市在住者は対象外）今回、出場された中から来年、滋賀県で開催される第24回全国障害者スポーツ大会（わた SHIGA 輝く障スポ2025）の広島県代表選手が決まります。



大会報告

第23回おりづるオセロ大会開催

令和6年
11月10日(日)

この大会は、障がいのあるなしにかかわらず、すべての県民が交流できる唯一の大会として、2002年度（平成14年度）から23年間続いています。日本オセロ連盟中・四国ブロックより藤原 章雄 ブロック長を審判長としてお招きし、オセロの講評をいただくとともに、大会終了時には連盟公認の級位認定証も発行されます。

今回の大会では、12名の選手がエントリーされ、午前中の予選リーグ、午後からのトーナメント戦と、白熱した試合が繰り広げられました。特に決勝トーナメントでは、息をすることもはばかれるほどの緊張感の中、ただ石を置く音のみが会場に響いていました。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止した年もありますが、少しずつ以前の活気が戻りつつあります。次回の大会ではぜひ多くの皆さまにご参加いただければと願っております。大会にご協力いただきました審判長の藤原 様、ボランティアの皆さまにもこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



令和7年度おりづるサポーターを募集します!



当センターの大会や行事をお手伝いいただく『おりづるサポーター』を募集します。

『おりづるサポーター』は障がい者のスポーツ活動・文化活動・余暇活動等に参加しやすい環境作りや日常支援を目指し、併せて、障がいや福祉に関して理解のある、参加者の主体的な活動を支援するボランティアのことです。

当センターでは、養成講習会を開催しており、サポーターへの登録を希望する方には受講を必須としております。これは、障がい者の方と初めて接する人や、そうでない人も実際の現場で役立つような内容としており、初めての方、リピーターの方でも安心して、ボランティア活動ができるようにするためです。講習会もニーズに合わせて、昼間と夜間を設定しています。ご都合に合わせて受講ください。皆さんの応募をお待ちしております。

令和7年度おりづるサポーター養成講習会

日程①：令和7年3月9日(日) 13:30～15:30

日程②：令和7年3月14日(金) 18:30～20:30

活動期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日まで

※おりづるサポーターへの登録を希望する場合、どちらかの日程で講習会を受講していただきます。

先輩の声 荒木 通広さん



私は10年ほど前に、人とつながるようなボランティア活動がしたいと思い、おりづるサポーターに登録しました。活動前の私は日常生活で障がいのある方と接する機会が少なかったため、接し方などに不安がありました。しかし、参加者や他のサポーターとともに活動する中で、そんな不安は徐々に払拭されていき、私自身も楽しみながら活動するようになりました。

今ではライフワークの一部となっており、今後もおりづるサポーターを続けていきたいと思っています。

第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」広島県選手団に帯同しました!

令和6年10月
24日(木)～30日(火)

佐賀県で開催された、第23回全国障害者スポーツ大会『SAGA2024』広島県選手団の総務として帯同させていただきました。加えて、視覚障害の選手のガイドとして競技エリアにも同行しました。

この大会にはすでに何回か帯同させていただいていますが、大会ごとに選手も違えば、役員も違います。また、開催される県によっても条件は様々で、宿泊先のホテルから競技場までが20分ぐらいの時もあれば、1時間ぐらいの時もあります。私の場合、すべて陸上競技に帯同していますが、どの競技よりも朝早く出て、夜遅く帰ってくる競技です。もちろん、総務という立場で帯同していますので、選手・役員の取りまとめをするので大変なことも多いです。想定外のことも起こります。そんな中でも、選手の皆さんが自分の力を発揮できるよう、コーチの皆さんが選手のサポートに集中できるよう、環境を整えられるよう心がけています。ですが、いつも選手や役員の方に助けられている場面も多いです。移動すれば、誰かが人数を数えてくれたり、たくさん荷物を持っていたら、サッと持ってくれたり……5泊6日の長いようで短い期間ですが、選手・役員ともに支え、支えられという関係がどの大会でもできていくので不思議です。

開催県の方々にも毎回支えられています。行政の方や地元学生ボランティアの方々にはいつもたくさんのおもてなしをしていただいています。本当にありがとうございます。

全国障害者スポーツ大会は障害者の社会参加を目的に開催される大会です。どの大会でも共通して思うことが、いつも皆さん「参加してよかった」「ハードなスケジュールだったけど楽しかった」(ちなみに今年は朝4:50から朝食でした……笑)と言って広島に帰る人がほとんどです。かくいう私もその1人です。

この大会にはただただ、競技をするだけでなく、その他に得られるものが各々たくさんある気がします。



特集

福祉用具について



福祉用具と聞いて、まず思い浮かぶのはどんなものでしょうか？高齢の方や障害のある人の自立に役立ち、介護する方の負担を軽減する、そんな役割をもつ福祉用具には便利なものがたくさんあります。

平成5年施行の「福祉用具法」では、福祉用具を「心身の機能が低下し日常生活を営むのに支障がある老人又は心身障害者の日常生活上の便宜を図るための用具及びこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具」としています。一方、平成12年に施行された「介護保険法」では、「心身の機能が低下し日常生活を営むのに支障がある要介護者等の日常生活上の便宜を図るための用具及び要介護者等の機能訓練のための用具であって、要介護者等の日常生活の自立を助けるためのものをいう。」としています。（日本福祉用具供給協会ホームページより引用）

ただし、多様性（ダイバーシティ）の観点から、障害のあるなしに関係なくすべての人は同じ生活者と考える傾向が年々高まっており、福祉用具も一部の人向けでなく、誰にとってもより生活の質を高めるための用具と捉えると身近に感じられるのではないのでしょうか。

さて、今回はスポーツ交流センターおりづるのモデルルームに展示している「福祉用具」のいくつかをご紹介します。

「シャワーチェア」

座る・立つ動作が不安定になってきた人が、安全に楽に入浴できるようにサポートしてくれる浴室用椅子です。

椅子の脚ゴムの広さと重さがあるので安定感があり、床滑りしにくくなります。商品によっては、座面や背もたれに滑りにくいやわらかなクッション素材を使用し、臀部が痛くなったり前にずれたりしないように工夫されているものもあります。通常の風呂椅子よりも座面が高く、足腰が弱ってきた人の身体の状態に合わせて立ち上がりやすい脚の高さに調整できるので、介助される人は楽に立ち上がることができます。介助する人にとっても、介助量が減るので腰など身体への負担も減らすことができます。

首や座る姿勢の安定を保つことができない子ども用シャワーチェアなど、使う人の用途によっても様々なタイプが販売されています。

おりづるでは様々なタイプを実際に試すことが可能です。



「食事・整容関連用具」

生活に欠かせない活動である「食事」をサポートしてくれる食事関連用具は、実に多種多様な種類のものがあります。例としては、食器・お箸・スプーン・フォークなど様々な形状であったり、柄の向きを自由に替えられたり、弱い力でも使用できるようになっていたりと様々です。展示してある食事関連用具を実際に手にとってもらえば、その機能がわかるとと思います。

また「整容」とは身なりを整える行為のことを示します。例えば髪をとかしたり、爪を整えたり、服を着たりなどを補助する用具も展示しています。



「視覚に障害がある人向け機器」



視覚に障害がある人の生活動作をサポートする機器について、一か所にまとめて展示を行っています。

見えにくさを補うために、音や指先の触覚などから情報を得ることのできる用具を揃えています。

実際に触ってみるとその工夫がよく感じられると思います。

実はおりづるの福祉用具展示コーナーは、広島県内では類を見ない規模の施設となっています。おりづるに展示している機器は実際に自宅等で試すことが可能です。（最大7泊8日貸し出し可）福祉用具に関する相談も随時受け付けておりますので、気軽にお声かけください。

ここではご紹介できませんが、企業様からお預かりした用具展示も行っております。皆さまに一度ぜひ足を運んでいただきたく思います。

多くの皆さまにおりづるの機能を活用していただけるよう、私たちが努力を重ねてまいります。今後ともよろしく願いいたします。



おりづる主催教室講師に聞いてみました

アトリエ教室講師

いづみ みつよ
泉 充代さん



当センターでお世話になっている講師の方の横顔を紹介するこのコーナー。2回目の今回は文化系教室の中でも特に人気の高い「アトリエ教室」の講師、泉充代さんに教室終了後、その様子やこれまでの半生を振り返ってもらいました。

——今年も大人気の「アトリエ教室」。今日の教室の様子などお聞かせください。

今日のアトリエ教室は「クリスマスボードづくり」でした。年8回、季節の花や自然のものを使って作品を作っています。材料だけ渡して、見本を見ながら、あとは自分の好きなように作ってもらっています。いろんなところに置いてみたり、形から外れて自由につけられるっていうのが多分ストレスも少ないと思うんですね。皆さん感覚を研ぎ澄ませて頑張っておられますよ。

——アトリエ教室、ここまでを振り返っていかがですか？

十数年前にスタートしました。障がいのある方を対象とした「アトリエ」教室と名称を変えて、4年目を迎えたところです。あんまり簡単にしちゃうと、皆さん器用なので動かしてハイ終わりになってしまうので、できるだけその材料を切る場所から始めます。それをどこについたら、っていうのを考えたり、他の人の作品を見た時に隣の人が上手に作ってたら悔しい、よし自分も頑張ろうと感じるようになります。終わった後にみんな感想を言い合ったり、褒め合ったり。褒められるってすごく嬉しいし、自分と違うものを作った人はみんな認め合うんですね。

——今日参加されている方から「毎回楽しみなんよ」とうかがいました。

何でもできる人って1回しか来ないんですよ。すぐ別のものに興味持って、それもすぐできるから飽きてまた違うことやって、となるんですけど、自分が最初できないと思って来られた方が1個作って褒められることで、こんなに自分でできるようになったと自信がつき、何回も来られるようになります。皆さんの笑顔が励みになってここまでやってこれました。

——この教室がコミュニケーションの場にもなっていますね。

最初はあまり自分から積極的に話さない方も、作品が出来上がっていく頃には打ち解けて、遠くの人同士でも大声で会話が飛び交うようになります。スポーツって身体機能だけじゃなく、感覚とか指先とかコミュニケーションとか全てがつながってるんじゃないかなと思っています。スポーツを頑張っておられる方も、こうした文化系の講座に参加することで、何かのきっかけになるかもしれないですね。

——お花との出会いを教えてください。

小学生の時に親戚のおばちゃんちで、いっぱい飾られていたアートフラワーを見て感動したのが最初でした。まだ子どもには難しいよ、と言われたけど、見よう見まねで作ってみせると



うまいねって褒められて。それから材料も少しずつ分けてもらいながら作るようになりました。折り紙とかで花びらを作って切ったりと、どんだんのめり込みました。

—お花とともに歩んだ人生なんですね。

小学校の時に花と出会ったものの、中高大学まではピアノ一筋。花から遠ざかっていた時期もありました。ある時、知人から山に行ってお花のツルを取ってきてリースを作ろう、と誘われました。花とか木の葉とか積んで帰って、気づいたら真夜中まで熱中して作っていました。やっぱり基本的にお花とか香りとかそういうものが好きだったんだとあらためて気づきました。

——ここ東広島の街でのエピソードがあれば教えてください。

地元はもともと九州で、結婚してここ東広島に住むようになりました。もう30年ほど前でしょうか。イズミゆめタウンの4階にフリーマーケットのスペースがあって、ここで不用品とか手作りの作品を販売するようになりました。お花やポップリ、カレンダーにお年玉袋……最初3,000円の元手から始めた作品がどんどん売れるようになり、評判になりました。たくさんの方々に喜んでもらったことが、現在やっているお店「ポプリアート」につながっていきました。

—これからの目標や夢を教えてください。

年を重ねていくと、人と関わっていく機会も減ってきている方が多いと感じています。音楽・お花・香り……これまで私がやってきたことを、求められている場所に積極的に出向いてイベントを開催するなど、いろんな形で恩返ししたいですね。また、小さなお子さんにはきっかけをつくってあげたいと

思います。色々キャラを演じながら（笑）、気軽に話しかけて冗談も言い合いながら、笑いの絶えない空間をつくることで、またここに来たい、次もやりたいたいという人たちが増えていくのが理想です。

——「アトリエ」教室、今後の展望をお聞かせください。

実は教室を越えて、ここを利用される皆さんが普段どんな生活をしているのか、何を求めているか、もう少しコミュニケーションをとる機会があればと考えています。こういうことをやりたいというニーズがあれば、形はどんどん変えていってもいいと思っています。一番望んでいるものを提供できて、モチベーションに繋がれば嬉しいです。今は手芸でありお花なんですけど、例えば男性向けに全然違うものでも面白いかなと。

——最後にスポーツ交流センターを利用されている皆さんへ一言お願いします。

まずは興味を持った教室に参加してみてください。自分が今までやったことのないことをやることで、新しい発見があると思います。参加してみて合わなければやめたっていいんですから。もちろん、「アトリエ」教室の参加も大歓迎ですよ！

対談を終えて

泉先生の優しい雰囲気や教室全体に広がり、参加者の笑顔がとても印象的でした。後日八本松にあるお店「ポプリアート」にもお邪魔し、ご自身の思いを凝縮した素敵な空間を感じることができました。これからも皆さんの趣味の場として、また交流の場として、引き続きお力を貸してくださいませ！



☆ 行 事 案 内 ☆

		1月	2月	3月
1	水	元日 休館日	土 スキルアップ（水泳）講習会（身体）	土 FD 指導者養成講習会
2	木	休館日	日 スキルアップ（水泳）講習会（知的・精神）	日 FD 指導者養成講習会 泳法アドバイス
3	金	休館日	月 休館日	月 休館日
4	土		火 休館日	火 休館日
5	日		水 おりづるジュニアクラブ（カルチャー）	水 ゆったり体操 おりづるジュニアクラブ（カルチャー）
6	月	休館日	木 かんたんスマホ講座	木 おりづるジュニアクラブ（水泳）
7	火		金 リハビリ体操 おりづるジュニアクラブ（スポーツ）	金 リハビリ体操 おりづるジュニアクラブ（スポーツ）
8	水	おりづるジュニアクラブ（カルチャー）	土 バトミントン	土 おひさまクラブ
9	木	ゆったり体操	日 スポーツレクリエーション	日 パラスポーツやってみよう（車いすバスケ）
10	金	おりづるジュニアクラブ（スポーツ）	月 休館日	月 休館日
11	土	泳法アドバイス	火 建国記念の日	火 水中健康運動
12	日	おひさまクラブ スポーツレクリエーション	水 休館日	水 おりづるジュニアクラブ（カルチャー）
13	月	成人の日	木 おりづるジュニアクラブ（水泳）	木 おりづるジュニアクラブ（水泳）
14	火	休館日	金 エンジョイスポーツ	金 リハビリ体操 おりづるジュニアクラブ（スポーツ）
15	水	書道でクラフト	土 おひさまクラブ	土 バトミントン
16	木	ゆったり体操 おりづるジュニアクラブ（水泳）	日 チャレンジ!! 水泳	日
17	金	リハビリ体操 エンジョイスポーツ	月 休館日	月 休館日
18	土		火 水中健康運動	火
19	日		水 ゆったり体操 おりづるジュニアクラブ（カルチャー）	水 ゆったり体操
20	月	休館日	木 片手でもできる手芸	木 春分の日
21	火	休館日	金 おりづるジュニアクラブ（スポーツ）	金 休館日
22	水	おりづるジュニアクラブ（カルチャー）	土 プール午後休業	土
23	木	ゆったり体操	日 第27回広島県障害者水泳競技大会 天皇誕生日	日
24	金	リハビリ体操 おりづるジュニアクラブ（スポーツ）	月 振替休日	月 休館日
25	土		火 休館日	火
26	日	チャレンジ!! 水泳	水 書道でクラフト	水
27	月	休館日	木 ゆったり体操 おりづるジュニアクラブ（水泳）	木
28	火	水中健康運動	金 リハビリ体操	金
29	水	アトリエ		土
30	木	おりづるジュニアクラブ（水泳）		日
31	金			月 休館日

※上記予定は、機関誌発行時の予定です。変更の場合もありますので、ホームページや電話にてご確認ください。



あとがき いつもスポーツ交流センターをご利用いただきありがとうございます。気づけば12月、師走です。これを書いているのは11月ですが、きっとあっという間に12月が過ぎていってしょう…今年も1年ありがとうございました。個人的には長かったような、早かったような…不思議な感覚の1年でした（笑）来年もどうぞよろしく願いいたします。

おことわり

平成17年4月、個人情報保護法の制定に伴い本誌掲載の写真は、全て、本人の許可を得て掲載しております。

■ 編集・発行 ■

広島県立総合リハビリテーションセンター
スポーツ交流センター・おりづる

〒739-0036 東広島市西条町田口295-3

TEL (082)425-6800 FAX (082)425-6789

Mail oridsuru@hiroshima-wsc.jp

HP <https://www.rehab-hiroshima.org/orizuru/>